

配人は「リサイクルが当たり前となり、明るい未来につながってほしい」と語った。
作業を行ったのは、温泉施設を運営するQOLたばやま（丹波山村、原島秀明社長）。施設で使ったバスタオルを、介護福祉サ



【39】

5月中旬、丹波山村の温泉施設「のめこい湯」で、1台のワゴン車に使用済みバスタオルを積み込む作業が行われていた。車が向かった先は、東京都内の介護福祉施設。のめこい湯の野崎喜久美総支

QOLたばやま 目標：つかう責任



再利用したバスタオルを介護施設の利用者に手渡す介護職員
—東京都内

タオル施設で再利用

バスを手掛けるレアクル（東京都台東区）に無償で提供している。国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）のうち、「つくる責任 つかう責任」を意識した取り組みだ。
のめこい湯は利用者向けにバスタオルとフェイスタオルをレンタルか、販売していたが、新型コロナウイルス

メモ

【所在地】丹波山村
【代表者】原島秀明
【沿革】2019年に村が全額出資して設立。年間約20万人が訪れる、道の駅たばやまや温泉施設「のめこい湯」などを運営する。

ナウイルス感染拡大を受けて2年程前に販売のみにした。しかし、バスタオルは使用後に施設内に置いていく人が多く、放置されたタオルは月200〜300枚に及んだという。
QOLたばやまは「1回しか使っていないのに廃棄はできない」として、当初は使用済みタオルを洗濯、高温乾燥し、関係先に無償で譲渡。全てを譲ることができなかつたため、レアクルに提供を持ち掛けたという。

レアクルは東京都内を中心に全国21カ所が入浴特化型の通所介護施設を運営しており、入浴で使用するタオルは原則として利用者が持参。今年2月からQOLたばやまから譲り受けたタオルを東京、大阪の計19施設で利用者に提供を始めた。使い古したタオルを使う利用者も多かったことから、「新しいタオルを使うことができる」と好評と
レアクルは各施設で利用者向けの小売りや、都営団地で暮らす高齢者向けの移動販売も手掛ける。QOLたばやまとのつながりをきっかけに、村産の野菜やシカ肉を使ったジビエ加工商品の扱いも始め、人気商品となっている。
野崎総支配人は「何でも使い捨てという時代は終わり、不要な物もほかの誰かの役に立つことがある」と、行く先を考える必要がある。取り組みの意義を発信し、意識が広がる一助になるといい」と話している。
〈古守彩〉
〓次回は31日に掲載します。

